科目	1	現代の国語	単位数	立数 2 年次 1					当者	上原 一	真
教科書	書等	新編 現代の (東京書籍		面接指	導時数	2	レポート提	·出回数	6	試験回数	2
学習目	目標	言葉による見っ力を次のとおり				を通して, [国語で的確	に理解し	ン効果的	こま現する資	聲•能
レポート	内容	単元	<u>.</u>		学 習	内 容		メディア	利用学習	学習内容	容
第1回 レポート	1	1 自己を見っ	つめる	こそそめス- ルリボシカミ				NHK	1回 Eテレ D国語	1学期 1 自分を伝え、相 ろう	
第2回 レポート	2	2 他者に出	台会う	未来をつくる	る想像力						
第3回 レポート	3	2 他者に出	会う	水の東西					2回 書籍	鍋洗いの日	∃々
第4回 レポート	4	5 社会と関	わる	森で染める。真夏のひし							
第5回 レポート	5	5 社会と関	わる	鍋洗いの日	Þ						
第6回 レポート	6	7 世界とつな	ながる	りんごのほ	o~						
面接持		教科書、直近の ればそのままに ようにしてください	せず調べ								
評価のと方:		レポート提出時などを総合的に			たレポート	— 点と単位認	 定試験の役	ー 景点、ス [,]	クーリン	グ時の取り組	み状況

科目	1	言語文化	単位数	2	年	次	1	担当	当者	上原一	真
教科書	等	新編 言語》 (東京書籍		面接指	導時数	2	_	∼提出回 数	6	試験回数	2
学習目	学習目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通してする資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							., 国語で	で的確に	Ξ理解し効果的Ⅰ	こ表現
レポート	内容	単 元 学 習 内 容						メディア	利用学習	学習内容	\$
第1回 レポート	1	現代文総 1 随筆 2 小説		第1回 _{古文} NHK Eテレ ニーニー 言語文化 宇治				2回[古文]古: 古文の世界 宇治拾遺物	へ 語		
第2回 レポート	2	現代文統3 詩歌		柳あお。 雪の深 冬が来	さを【俳					児のそら寝	1)
第3回 レポート	3	古文編 古文入『		古文に児のそ					2回 書籍	羅生門 (p72~p7	
第4回 レポート	4	現代文統 4 小説 5 小説	2	羅生門 夢十夜							
第5回 レポート	5	古文編 4 物語 5 紀行		伊勢物 奥の細					,		
第6回 レポート	6	漢文編 1 漢文入 2 漢詩	.門	訓読の 故事成 絶句と	語						
	面接指導 〈スクーリング〉 物科書、直近のレポートを教材に納得のいく指導を心がけます。本文中やレポートで分からない語 句や漢字があればそのままにせず調べるようにしましょう。親しみやすい文章ばかりですので積極 的にスクーリングに参加するようにしてください。										
評価のと方:		レポート提出時 取り組み状況が						認定試	験の得	点、スクーリンク	げ時の

年間指導計画表 滋慶学園高等学校

科目	文学国語	単位数	4	年次	2~3	担当者	上原	[一真
教科書等	新編文学国語〈東京書		必要出席 時数	4	レポート提 出回数	12	試験回数	2
学習目標	生涯にわたる社会生活に必 とができるようにする。 深く共感したり豊かに想像し を高め、自分の思いや考えを 言葉がもつ価値への認識を 手としての自覚を深め、言葉を	v. 他者との関わり]上させ, 我が国の	の中で伝え合う力					
レポート内容	単元			学 習	内容		メディア 利用学習	学習内容
第1回 レポート	I 部j 随筆		光の窓 雨月物記	<u> </u>			第1回	
第2回 レポート	I 部j 小説1		山月記 窓				NHK Eラジオ 文学国語	第13回 近代文学の成り立ち
第3回 レポート	I部 評論1		言葉を生詩と感情				义子国品	
第4回 レポート	I 部 小説2		山椒魚				第2回	第21回
第5回 レポート	I 部 詩歌		永訣の草 硝子の馬			NHK Eラジオ	古典を基にして物語を作る	
第6回 レポート	I 部 小説3		こころ				文学国語	1774
第7回 レポート	I 部 評論2		文学のゑ あの朝				## o 🗔	I 部 1 随筆
第8回 レポート	Ⅱ部 詩歌		小諸なる 平気	古城のに	まとり		第3回 東京書籍	光の窓 小池昌代
第9回 レポート	Ⅱ部 随筆2 戯曲		クレール 父と暮せ	という女 ば), , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	(p8~14)
第10回 レポート	Ⅱ部 小説2		舞姫				## · -	I部 5詩歌
第11回 レポート	Ⅱ部 評論		演技する 映画の同		ために		第4回 東京書籍	永訣の朝 宮澤賢治
第12回 レポート	Ⅱ部 小説3		葉桜と魔 蝿	笛			ハ ハロ fn	(p98~103)
面接指導 〈スクーリング〉	教科書、直近のレポート 句や漢字があればその。 的にスクーリングに参加	ままにせる	ず調べる	ようにしま				
評価の観点と方法	レポート提出時期や内容 状況などを総合的に加吸			単	位認定詞	 ば験の得り	 点、スクーリン:	ブ時の取り組み

科目	論理国語	単位数	4	年次	2~3	担当者	上原	一真
教科書等	新編論理国語〈東京	書籍〉	必要出席時数 4 レポート提出 回数 12				試験回数	2
学習目標	実社会に必要な国語の知識や 論理的、批判的に考える力を伸 めたりすることができるようにする 言葉がもつ価値への認識を深め 通して他者や社会に関わろうとす	」ばすとともに、創 う。 かるとともに、生	創造的に考える力					
レポート内容	単元			学 習	内容		メディア 利用学習	学習内容
第1回 レポート	I 部 1 広がる風景		対話とは何世界をつく			/// A [5]	<i>**</i> *.4 □	
第2回 レポート	I 部 2 考える手がかり		少女たちの 「ふしぎ」と	_			第1回 NHK Eラジオ 論理国語	第1回 入門編(1) 文章を楽しむ
第3回 レポート	I部 3 人間と知性		学ぶことと				神生色品	ヘギで木しむ
第4回 レポート	I 部 4 現実の中で		思考の肺況 安心につい	て			₩ 0.El	第2回
第5回 レポート	I 部 5 ものの見方		弱肉強食は複数の「わ	<i>t</i> :L]			第2回 NHK Eラジオ 論理国語	入門編(2) 文章を読み解
第6回 レポート	I部 6 働くよろこび		はじめに「言 楽に働くこ	と、楽しく働く			門生巴印	<
第7回 レポート	Ⅱ部 1 時代をひらく		最初のペン 豊かさと生					考える手がかり
第8回 レポート	Ⅱ部 2 新しい視点か	\ b	物語の外か カフェの開				第3回 東京書籍	書く 資料を整理 し、テーマを吟味 しよう
第9回 レポート	Ⅱ部 3 科学と人間		鏡としての ロボットが降	アンドロイド 姓人になると				(p46~54)
第10回 レポート	Ⅱ部 4 豊かな認識		言葉は「もの 科学的「発	の名前」で 見」とは	ごはない			=A TIII o L
第11回 レポート	Ⅱ部 5 知のうくえ		知識におけもう一つの:		:構造性		第4回 東京書籍	論理のカ 1 つなげるカ
第12回 レポート	Ⅱ部 6 明日をみつめ	りて	ホンモノの 未来のあり		り方			(p148~153)
	教科書、直近のレポート あればそのままにせず記 するようにしてください。							
評価の観点と方法	レポート提出時期や内容 総合的に加味し評価する		:レポート点と	上単位認定 i	試験の得点	、スクーリン	グ時の取り組	み状況などを

科目	国語表現	単位数	4	年次	2~3	担当者	上原 一真			
教科書等	国保表現〈東京書	籍〉	必要出席時数	4	レポート提出回 数	12	試験回数	2		
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言 実社会に必要な国語の知識や技能を 論理的に考えるカや深く共感したり豊かできるようにする。 言葉がもつ価値への認識を深めるとと 態度を養う。	身に付けるようにす かに想像したりする	rる。 る力を伸ばし,実社会	会における他者との	の多様な関わりの中	で伝え合う力を高る	め, 自分の思いや考えを			
レポート内容	単元			学 習	内 容		メディア 利用学習	学習内容		
第1回 レポート	分かりやすく説明しよう	- 〈説明しよう 情報の整理・伝達								
第2回 レポート	分かりやすく説明しよう		接続の言葉 SNSでのトラ		りために		第1回 NHK Eテレ ベーシック国語	第24回 指示語 第25回 接続語		
第3回 レポート	身体で表現しよう		発声とロ調 身振り・表情	Ė						
第4回 レポート	「問い」を考えよう		インタビュー 事務的な連				frite a -			
第5回 レポート	「問い」を考えよう		インタビュー 「問い」の活		とめよう		第2回 NHK Eテレ ベーシック国語	第31回 比喩表現 第32回 印象を深 める表現		
第6回 レポート	「問い」を考えよう		自分のこと	をよく知る				00 0 X 31		
第7回 レポート	論理的な文章を書こう		テーマ型・	小論文						
第8回 レポート	論理的な文章を書こう		課題文型 自己PR型		一タ分析型	小論文				
第9回 レポート	話し合い力をつけよう		いろいろな記	舌し合い						
第10回 レポート	情報活用力を身につけ。	ķう	広報資料を 報告書の書				/			
第11回 レポート	説得力のある提案をしよ	 :う	提案書の書	き方						
第12回 レポート	表現を楽しもう		構成や表現	の仕方を考	える					
面接指導 〈スクーリン グ〉	教科書、直近のレポート ばそのままにせず調べる してください。									
評価の観点と方法	レポート提出時期や内容 に加味し評価する。	――― 『を考慮した	レポート点と	——- :単位認定詞	 ぱ験の得点、	スクーリング	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	犬況などを総合的		

科目	国語演習	単位数	2	年次	2~3	担当者	上原	一真
教科書等	国語必携 ライトパーフェク		必要出席時 数	2	レポート提出 回数	6	試験回数	2
学習目標	基礎的な国語を適切に表現 することによって国語の向上 な「読み、書き」を中心に正確 進学、就職といったそれぞれ 演習問題を中心に国語力を	や社会生活の充実 確に文章を読むこと Lの多様的な進路	尾を図る態度を育 ☆に加え、基礎的が こ対応し、その進	てる。 な漢字、慣用表:	現などの社会で必	要な知識を身につ	oけることを目的とし、豊かなI	国語に必要 国語力を養わせる。また
レポート内容	単	元		学 習	内 容		メディア 利用学習	学習内容
第1回 レポート	国語常識① 漢字・慣用句① 四字熟語・ことわざ(貫用表現・2	○知識を深め □字熟語・こと			
第2回 レポート	国語常識② 漢字・慣用句② 四字熟語・ことわざ(貫用表現・・	り知識を深め 四字熟語こと			
第3回 レポート	漢字·慣用句③ 演習問題(小説·評				学習し身につ 問に適切に答			
第4回 レポート	漢字·慣用句@ 演習問題(小説·評	₹ ^ \ @			身につける。 問に適切に答	ぎえる練習		
第5回 レポート	漢字·慣用句⑤ 演習問題(小説·評				身につける。 問に適切に答	ぎえる力を		
第6回 レポート	漢字·慣用句⑥ 演習問題(小説·評	於) (1)			身につける。 i切に答える <i>;</i>	カをつけ		
	教科書、直近のレオ にしてください。	ペートを教材に	こ納得のいく	指導を心か	がけます。各人	が問題意識		でを加するよう
評価の観点 と方法	各回のレポートへの	取り組みやス	スクーリング、	試験の結り	果を総合的に	判断して評価	価する。	

科目	古典探究	単位数	4	年次	2~3	担当者	上原	〔 一真
教科書等	新編古典探究〈東京		必要出席時数	4	レポート提出回数	12	試験回数	2
学習目標	生涯にわたる社会生活に必要な 論理的に考える力や深く共感しめ、自分の思いや考えを広げたり 言葉がもつ価値への認識を深め 者や社会に関わろうとする態度を	たり豊かに想像 深めたりするこ。 なとともに, 生	したりする力を伸 とができるよ う に	ばし, 古典などを する。	を通した先人のも	のの見方, 感じた	方、考え方との関わり	の中で伝え合う力を高
レポート内容	単元			学 習	内 容		メディア 利用学習	学習内容
第1回 レポート	伊勢物語 大和物語 字治栓湯物語		古典仮名遣 初冠・姨捨 敬語表現に				第1回	第34回
第3回	宇治捨遺物語 竹取物語 十訓抄		小野篁、広辺 短歌につい	才のこと・天 て	NHK Eラジオ 古典探究	源氏物語 ~若紫(1)~		
レポート 第4回	小倉百人一首の世界 徒然草		大江山の歌 古典文学史		一首の世界 九月二十日の	のころ		
レポート	枕草子		ありがたきも	らの・雪のい	と高う降りた		第2回	第27回 史記
第5回 レポート	小話─四編 唐詩─八首	漢文の基本 蛇足・登岳	易楼∙登高	NHK Eラジオ 古典探究	~ 四面楚歌(1) 時 利あらず ~			
第6回 レポート	項羽と劉邦 小話─三編		史記につい 鼓腹撃壌・ヌ					
第7回 レポート	源氏物語 古事記		王朝女流文 若紫·倭建6					古文編 I部 1説話に親しむ
第8回 レポート	土佐日記 更級日記		干支につい 馬のはなむ	け・門出	戦について		第3回 東京書籍	・宇治拾遺物語 小野篁、広才のこと ・十訓抄
第9回 レポート	方丈記 平家物語		随筆につい ゆく河の流	れ∙壇の浦σ)合戦			大江山の歌 (9~13)
第10回 レポート	世間胸算用 近世俳句論		俳句につい 蛸売りのハ	助·芭蕉				古文編 I 部 5 日記を読む
第11回 レポート	文─二編 古体詩─五首		漢文特有の 雑説・飲酒・		て		第4回 東京書籍	・土佐日記 馬のはなむけ
第12回 レポート	儒家と道家		中国の二大 論語・性相i		て 、之心・人之 [†]	生悪		帰京 (53~57)
面接指導 〈スクーリン グ〉	教科書、直近のレポート ばそのままにせず調べる してください。							
評価の観点と方法	レポート提出時期や内容 に加味し評価する。	『を考慮した	レポート点と	:単位認定詞	は験の得点、	スクーリング	`時の取り組みね	犬況などを総合的

7.1 E	rd. von kon ele	334 F F SIG				10 vi +				
科目	地理探究	単位数	3		1~3	担当者		長野 康平		
教科書等	東京書籍 地理探	究 701	面接指導時 数	3	ンポート提 出回数		9		試験回数	2
学習目標							して、広い視野に立ち、? の資質・能力を育成する			:に主体
レポート内容	単元					学 習			メディア利用学習	学習内容
第1回 レポート	地理探究へのステップアップ 第1編 現代世界の系統地理 第1章 自然環境 1節 世界の地形 2節 気候と自然環境		③変動態の ⑤河川が作 ⑦気候や地 ①気候のり	D地形 ④ 作る地形 地質の影響 見方 ②プ	①安定陸均 ⑥海岸と が強い地 大気大循環	景と気候	の地形			
第2回 レポート	3節 気候と人々の生活		③乾燥帯の ⑤温帯の特 人々の:	の気候区分 D特徴と人 寺徴と人々 生活 ⑦	分 ②熱 々の生活 の生活(2 高山気候	帯の特徴とり ④温帯の !) ⑥亜寒帯 の特徴と人々	特徴と人々の生活(1) (冷帯)・寒帯の特徴と :の生活			
第3回 レポート	4節 日本の自然環境と自 5節 世界の環境問題 第2章 産業と資源		③自然災害 ①地球規模 ③オゾンホ ④森林破場 ⑥日本の野	害と防災・源 莫の環境問 ≔ル、大気 懐の背景と 環境問題	成災の取り 問題 ②は 気汚染のす 地域性	地球温暖化の 背景と影響 ⑤砂漠化・2				
	1節 産業の発展と社会的 2節 農林水産業	的分業	③グローバ	な地と携帯 バル化と農業	②世界 業地域の	りつきまざまな	大する世界の農産物流通			
第4回 レポート	3節 食糧問題 4節 エネルギーと鉱産資	源	①食料問題 ③日本の負 ①世界のコ	題の背景と 食糧問題 エネルギー	地域性 需要 ②	②食料問題	ェス の解決に向けて			
	5節 資源・エネルギー問題 6節 工業の立地と工業地		③電力生産 ①化石燃料 ②化石燃料 ③日本の資	当への依存 料から再生 資源エネル	可能エネギー問題	ルギーへ	- 二油ル学			
第5回 レポート	7節 第三次産業	5场00支谷	③自動車・ ⑤グローバ ⑥工業の知	エレクトロニ ドル化とエミ 記識集約化	ニクス ④ 業地域の ; ⑦日2	新しい技術と	:工業 の変容			
	第3章 交通·通信、貿易、観 1節 交通·通信	光	②情報通信 1交通の多	言業とその? 発達(1)	集積 ③ ②交通)医療・福祉産 の発達(2)	登業の課題 ③情報通信技術の発達		東京書籍 インターネット講 座	
第6回 レポート	第4章 人口、村落·都市 1節 人口		①観光の列 ①世界の ②人口動態	発達と地理 人口分布と 態と人口ピ	的展開 人口増加 ラミッド	③人口移動(な観光 の変遷と今日の姿		①第1編1節 世界をつくる地 形	
第7回 レポート	2節 人口問題 3節 村落・都市 4節 居住・都市問題 第5章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化の地域性	女	①村落の材 ③都市の内 ①発展途」 ③日本の原	機能と携帯 内部構造と 上国の居住 居住・都市同	②都市 大都市圏 ・都市問題 問題	題 ②先進[※放送内容は 第1回 レポート範囲 ②第1編3節 気候と人々の生	
第8回 レポート	2節 民族・言語・宗教 3節 民族問題 4節 現代の国家と領土問 第2編 現代世界の地誌的考	引題 	③民族問題	る様な民族 頃をどう乗り	問題 (2 りこえるか	分争と難民	因と解決への取り組み		活 ※放送内容は 第2回 レポート範囲	
	第1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分の意義と方 第2章 現代世界の諸地域 1節 東アジア	}	③地域の ①中国の ②中国の 記	考察方法 牧革開放と 農業・農村の	急速に進 の近代化。	と都市化 ③	環境問題などの課題			
第9回 レポート	2節 東南アジア 3節 南アジア		⑥韓国の都 ①東南アシ ③ASEANG ①グローバ	都市・農村の ジアの多様 ^ジ の政治と経 バル化と南フ	の変化と5 な文化 済発展 アジアの&	E活文化 ②東南アジ ④国家間の 経済発展 ②	韓国の経済成長と地域構造 アの地域性と農業 格差などの課題 大都市の形成と格差の問題 ジア世界の多様性と統一性			
第10回 レポー ト	4節 西アジアと中央アジ 5節 北アフリカとサハラ以 6節 ヨーロッパ		③資源開発 ①多様なな ③アフリカの ①ヨーロック	発にみられ。 文化の成り の発展と新 パ統合の流 パの産業と	る二つの: 立ち ② ftcな課題 たれ ②: cその変容	地域の違い モノカルチャ ! ヨーロッパの!	適応した生活文化と宗教 一経済克服の課題 農業とその変容 な大と地域格差			
第11回 レポー ト	7節 ロシア 8節 アングロアメリカ 9節 ラテンアメリカ		③周辺国と ①アングロ ③世界最力 ④先端産業	この産業・資 アメリカの。 大のアング 関の発展と メリカの成	登源をめぐ 農業 ② ロアメリカ 鉱工業地 り立ち	経済 域の変化		市圏		
第12回 レポー ト	10節 オセアニア 第3編 現代世界と日本の国 第1章 持続可能な国土像の 1節 日本の地理的諸課是 2節 持続可能な国土像の	探究 夏を読み解く	③オセア= ①日本の ^均	アと他地域	或との結び ②日本の	D国土政策	原と産業 察、さらなる探究へ			
面接指導 〈スクーリング〉	で、レポートを提出してく	ください。レポー	ト作成に参え	考になる	授業プリ	ントも活用	は席するときには必ずレホ します。問題点を解消し、 亟的に出席してください。	、理解を深め		
評価の観点と方法	レポートの提出時期や	ウ内容を考慮し	 たレポート点	と定期者	- き査の得	点、スクー	リング時の取り組み状況な	などを総合的	 りに加味し評価	する。

			平 11 11 4	子川田ツ				-, , , , ,
科目	世界史探究	単位数	3	年次	2	担当者	長野	康平
教科書等	東京書籍 世界史	 !探究 701	面接指導時 数	3	レポート提出 回数	9	試験回数	2
学習目標	社会的事象の歴史的見 体的に生きる平和で民主に							
レポート内容	単っ	Ī.		学	習 内 容		メディア利用学習	学習内容
第1回 レポート	序章 世界史へのまなざし 第1編 諸地域の歴史的特質 第1章 古代文明の出現 第2章 西アジアと地中海周		3 南アジブ 4 東アジブ 1 古代オリ 2 古代ギリ 3 ローマ希	Jエントとエーアの古代文明アにめばえた Jエントの統- Jシアとヘレニ 「国と地中海	 文明 - ニズム世界	7 I+		
第2回 レポート	第2章 西アジアと地中海周	<u>n</u>	5 地中海1	世界とアジア -ム世界の成	<u></u> 立	∓ 		
第3回 レポート			1 南アジフ 2 インド世		家形成			
	第4章 東南アジア 第5章 東アジアと中央ユーラ	ラシア	2 東南ア 1 古代帝 3 隋唐帝	国と東アジア	再編成 中国の分裂。			
	第6章 アフリカ、オセアニア、 第2編 諸地域の交流と再編 第7章 イスラーム世界の拡大 第8章 中世ヨーロッパ		1 イスラー 1 中世ヨー 2 中世西 3 中世西 編	-ム世界の発 -ロッパ社会 ヨーロッパ社: ヨーロッパの: -	会の成熟		事 第3回 エギリシア・ロー	①アテネ民
第6回 レポート	第3編 一体化していく世界 第14章 国民国家と近代社会 第15章 世界市場の形成とこ		3 フランス 4 自由主 5 19世紀 6 南北アッ 1 産業氏j 2 西アジフ 3 南アジフ	合衆国とラテ 革命とウィー 義の台頭と親 後半のヨー「 リカの発展 本主義の世り マの危機と改 マ・東南アジフ	iしい革命の波	吹米社会	と地中海 (NHK高校講 座) レポート第2回 の内容	主政治 ②ローマ帝 国の繁栄 ③キリスト教 の成立
第7回レポート	第16章 アジア・アフリカ諸国 世界分割の進行 第17章 第一次世界大戦の 第18章 国際協調体制の動	展開と諸地域の変容	3 南アジア 4 清の次世 2 ヴェル後の 3 アジアの 3 アジア・ア 4 世界際協調 2 第2次世 3	・東南アジア 川転換と 界大戦戦制と イエメリカでの国 アメリカでの国 と 大戦の開業 大戦の開業	の民族運動 国家建設の模 際秩序の再編 国とヨーロッパ 1家形成の動き ひ変容 むと展開	ā A		
æro⊡. I° I	第19章 第2次世界大戦と戦 第4編 グローバル化と地球 第20章 冷戦の世界化と国際	的課題	1 アジア・太 2 帝国の解 3 アジア諸[4 朝鮮戦争 1 冷戦と政	体と分断国 国の独立と脱 と東アジアの 治・経済秩序 フリカ諸国の	日本の敗戦 家の形成 植民地化 が冷戦」 強立と第三勢	} 力		
第9回レポート	第21章 冷戦の変容・終 経済のグロ 第22章 21世紀の地球的 人	一バル化	2 冷戦の変 3 冷戦の終 4 アメリカ合 1 グローバ	容と世界の記 結とその後の 衆国の復調 ル化にともな				
〈スクーリング〉	スクーリングでは、各匠 訂正した上で、レポート め、新たな発見を得られい。	を提出してください	ヽ。レポートイ	作成に参考	になる授業	プリントも活用し	」ます。問題点を解説	消し、理解を深
評価の観点と方法	レポートの提出時期や評価する。	ウ内容を考慮した	レポート点と	定期考査	の得点、ス [.]	 ケ−リング時の取	 り組み状況などを約	※合的に加味し

科目	地理総合	単位数	2	年次	2	担当者	長野	萨 康平
教科書等	地理総合(東京書:	籍)	面接指導時 数	2	レポート提出 回数	6	試験回数	2
学習目標	社会的事象の地理的! る国際社会に主体的になることを目指す。	見方・考え <i>:</i> 生きる平和	I 方を働かせ Iで民主的な	I 、課題を追 な国家及び	I 選求したりす 社会の有為	る活動を追為な形成者	I 通して、広い視野にご に必要な公民として	」 立ち、グローバル化す の資質・能力を育成す
レポート内容	単元			学 習	内容		メディア利用学習	学習内容
第1回 レポート	第1編 地図や地理情報システム る現代社会	ムでとらえ						
第2回 レポート	第1編 地図や地理情報システム る現代社会 第2編 国際理解と国際協力	ムでとらえ	第1章 人々の生		代世界 ・様な地理的 多様性と国			
第3回 レポート	第2編 国際理解と国際協力			生活文化と生活文化と	第1回 地球で暮らすっ てどういうこと? 〜地球上の生活	①球体としての地球 の特徴		
第4回 レポート	第2編 国際理解と国際協力		第2章 さまざまな 1節	地球環境問	題と国際協		~ (NHK高校講座) ※放送はレポー ト第1回の内容	②球面上の暮らし ③地球儀と世界地 図
第5回 レポート	第2編 国際理解と国際協力		4節 5節 6節	人口問題 食糧問題 居住・都市 民族問題 持続可能な	問題	現をめざし		
第6回 レポート	第3編 持続可能な地域作りと私	なたち		自然環境と 生活圏の記	:防災 調査と地域の	の展望		
	スクーリングでは、各 確認・訂正した上で、レァ し、理解を深め、新たな に出席してください。	ピートを提出	出してくださ	らい。レポー	-ト作成に参	考になる技	受業プリントも活用し	ます。問題点を解消
評価の観点と方法	レポートの提出時期や 加味し評価する。	⁵ 内容を考	慮したレポ	『一ト点と定	関考査の行	导点、スク−	リング時の取り組 <i>み</i>	状況などを総合的に

			年間指導	算計画表	ξ		滋慶学園	高等学校						
科目	日本史探究	単位数	3	年次	3	担当者	長野	康平						
教科書等	東京書籍 日	本史探究 701	必要出席時数	3	レポート提出 回数	9	試験回数	2						
学習目標	社会的事象の歴史的な社会に主体的に生きる事													
レポート内容	単	元		学	習 内 容		メディア利用学習	学習範囲						
第1回 レポート	第1章 先史社会の生活 第2章 歴史資料と先5	た史社会の生活と文化 2 縄文文化 3 弥生文化と小国家の形成 歴史資料と先史・古代の展望 1 先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質 2 東アジアとの交流の中で浮かびあがる歴史 3 木簡が語る律令国家の実態						3 弥生文化と小国家の形成 1 先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質 2 東アジアとの交流の中で浮かびあがる歴史 3 木簡が語る律令国家の実態 1 大和王権と古墳文化						
第2回 レポート	第3章 古代社会の形	或と展開(1節 3・4,	3 律令国 4 平城京。 2節 摂関 1 平安遷 2 貴族社会 3 国風文化	と天平文化 改治と貴族 鄒と唐風文 会と摂関政	之 (文化 (化									
第3回 レポート	第2編 中世の日本と世 第1章 中世社会の成 第2章 歴史資料と中t 第3章 中世社会の展	立世の展望	2 武士のi	カによる日 自然環境で 本の国際で な権の成立 での誕生 襲来と社	交流 Zと朝廷 2 執権に 会の変貌	生存戦略								
第4回 レポート	第3章 中世社会の展開		2節 武家3 1 南北朝6 2 倭寇と5 3 室町時 4 自立する 5 室町 1 地球的	の動乱と室 東アジア国 代の社会と る戦国大名 化	町幕府の原際交流 と経済活動 ム									
第5回 レポート	第1章 近世社会の形成 第2章 歴史資料と近世	戓	2 織豊政 3 桃山文	権による全化 化 代と幕藩体 ちの生活世	を国統一 体制 せ界		①NHK(高校講座 第10回							
	第3章 近世社会の展	開 (1節 1)	1 江戸幕	存と大名・	朝廷		鎌倉幕府はどのような政権だったのだろうか							
第6回 レポート	第3章 近世社会の展	開 (1節 2・3・4・5)	1 享保のi 2 近世社:	の中の幕落 治から分り 制下の社会 改革と経済 会の成熟と 制の立てII	身体制 也政治へ 会の発展 その発展 と危機の始ま	まり	②東京書籍 インターネット講座 第2編3章 武家政権の成立と 朝廷 レポート第3回範囲							
第7回 レポート	第4編 近現代の地域・ 第1章 近代社会の幕 第2章 歴史資料と近野 第3章 近現代社会の 1節 近代的制度の導	開け 見代の展望 展望	2 国民国 3 世界の 1 制度改 2 文明開	崩壊と明治 義の発展を 家の政近現が を を を を を を を を を を を を を を を を の を の	=生活 参加 弋日本 !業政策									
	2節 国民国家と資本		4 政府專 1 立憲 2 対外関 3 産業育制 5 日露戦 6 日露戦	制への不満的ののでである。 には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	満 と日清戦争 E義の定着 と新しい文∉ 日本 会と政治	Ė								
第8回 レポート	第3章 近現代社会の 3節 両大戦間期の日 4節 第2次世界大戦と	本	2 政党政 3 国際社 1 昭和恐 2 中国侵	治とデモク 会のなかの 慌と立憲政 略と戦時位	の日本 対治の動揺 体制への移									
	第3章 近現代社会の 5節 占領と改革	展望	1 占領とF 2 冷戦開	日本国憲法 始と経済復										
	6節 国際社会への復	帰と高度経済成長	1 国際社: 2 高度経		帚と対米協詞	調								
第9回 レポート	7節 アジア情勢の変化	ヒと経済大国日本		F代の国際	終社会と日本 ^処	z								
	8節 新しい国際秩序と	≤日本の課題		る世界と日										
面接指導 〈スクーリング〉	スクーリングでは、各回 レポートを提出してくださ うな授業にしたいと思い	い。レポート作成に参	参考になる授業プロ	ノントも活月	用します。 問	題点を解消し								
評価の観点と方法	レポートの提出時期や	内容を考慮したレポー	ート点と定期考査(の得点、ス	、クーリング 問	りまり組み状	況などを総合的に加	味し評価する。						
担当者より一言	レポート作成について してください。授業やレオ 形成されてきたものです です。これらのねらいを	パートなど興味がわい 。それらの課題を解 <i>泳</i>	た物事については 決していくためには	色々と調	べてみてくけ	ごさい。 現代の	の日本が抱える課題の	り多くは、歴史的						

科目	歴史総合	単位数	2	年次	1	担当者	長野	康平
教科書等	新選 歴史総合(東京	[書籍]	面接指導時 数	2	レポート提出 回数	6	試験回数	2
学習目標	社会的事象の歴史的 化する国際社会に主体 力を育成することを目指	的に生きる						
レポート内容	単元			学 習	内 容		メディア利用学習	学習内容
第1回 レポート	第1章 歴史の扉 第2章 近代化と私た	5	2節 歴 1節 近	史と私たち 史の特質と 代化への間 びつく世界		国		
第2回 レポート	第2章 近代化と私た	5		民国家と明代化と現代	治維新 的な諸課是	垣	<i>*</i> ** o □	
第3回 レポート	第3章 国際秩序の変 大衆化と私た				と大衆社会		第8回 第一次世界大 戦と戦後の世 界 (NHK高校講 座)	① 大衆社会の 時代 ② 第一次世界
第4回 レポート	第3章 国際秩序の変 大衆化と私た		4節 国		2次世界大 2化や大衆 題		ゲン ※放送はレ ポート第3回の 内容	大戦の展開 ③ 国際協調体 制の形勢
第5回 レポート	第4章 グローバル化	と私たち		コーバル化 戦と世界経				
第6回 レポート	第4章 グローバル化	と私たち		界秩序の変 代的な諸誤	で容と日本 は題の形成。	と展望		
面接指導 〈スクーリング〉	スクーリングでは、各回し、確認・訂正した上で、 を解消し、理解を深め、 らず、積極的に出席して	レポートを 新たな発見	提出してく	ださい。レス	ポート作成り	に参考にな	る授業プリントも活	5用します。問題点
評価の観点と方法	レポートの提出時期や同 に加味し評価する。	内容を考慮	じたレポー	ト点と定期	考査の得点	点、スクーリン	ング時の取り組み	伏況などを総合的

科目	公共	単位数	2	担当者	長野	承平				
教科書等	公共 (東京書籍	手)	面接指導時 数	2	レポート提出 回数	6	試験回数	2		
学習目標	人間と社会の在り方に 野に立ち、グローバル化 ての資質・能力を育成す	する国際	社会に主体					る活動を通して、広い視 が成者に必要な公民とし		
レポート内容	単元				メディア利用学習	学習内容				
第1回 レポート	第1部 「公共」のとびら		第2章 公共	一社会の 供的な空間/ J方生き方	を作る私たち つなかの自己 こおける人間 こきるための	! 引としての				
第2回 レポート	第1部 「公共」のとびら 第2部 自立した主体とし 参画する私たち	て社会に			こおける基本 き主的な社会 たち					
第3回 レポート	第2部 自立した主体とし 参画する私たち	て社会に	第2章 法	その働きと私	たち		第4回 民主政治と政治参 加① (NHK高校講座)	① 私たちの民主政治②地方自治のしくみ		
第4回 レポート	第2部 自立した主体とし 参画する私たち	て社会に	第3章 紹	経済社会で生	きる私たち		※放送は第2回レポートの内容	と役割 ③国会内閣のしくみ と役割		
第5回 レポート	第2部 自立した主体とし 参画する私たち	て社会に	第5章 国	ふたちの職業 間際社会のな -ーマ1・テー	かで生きる	私たち				
	第2部 自立した主体とし 参画する私たち 第3部 持続可能な社会・ 参画するために		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ーマ3・テー ロイメージをつ	-マ4	私たち				
	スクーリングでは、各回レポートの締切日直近回のレポートを解説します。出席するときには必ずレポートを持参し、確認・訂正した上で、レポートを提出してください。レポート作成に参考になる授業プリントも活用します。問題点を解消し、理解を深め、新たな発見を得られるような授業にしたいと思います。必要出席時数の確保だけにこだわらず、積極的に出席てください。									
評価の観点と方法	は は は は は は は は は に に に は は に に に に に に に に に に に に に									

科目	政治•経済	単位数	2	年次	3	担当者	長野 ほ	平
教科書等	東京書籍 政治・経済	F 701	必要出席時 数	2	レポート提出 回数	6	試験回数	2
学習目標	社会の在り方について 通して、広い視野に立ち 成者に必要な公民として	、グローバ	ル化する国	際社会に	主体的に生			
レポート内容	単元			学 習	内容		NHK(回) 高校講座	東京書籍 インターネット授業
第1回 レポート	第1篇 現代日本の政治 第1章 現代日本の政 1節 民主政治の基本 2節 日本国憲法の基	治 原理	2 法 3 基 4 現 5 世 2節 1 日 2 基	主政治の原 とと民主政権 と本的民主 と と と と と と と と と と と の と き の と き の と き の と き の と き の と き の と き る の ま る る し る し る ま る し る ま る も る も る と る も る も る も る も も も も も も も	台 の確立 対治 対治体制 の制定と基	本原理		
第2回 レポート	3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質	と課題	2 内 3 裁 4 地 4節 1 戦 2 選	会と立法 閣と行政 関と行政 大自治 後政治と政治と政治と政治 幸と政治	文党 意識			
第3回 レポート	第2章 現代日本の経 1節 現代の資本主義 2節 現代経済のしくみ	経済	2 資2節 1 約 2 生 3 市 4 国 5 金	済活動の意法本主義経済主体と終 経済主体とみず場所のは は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	斉の発展と 経済の発展で と企業 機能と展 経済成長 と機能			①民主政治
第4回 レポート	3節 日本経済の発展 4節 福祉社会と日本紙 題		2 日 交 4 節 2 農 4 情	後日本経記 日本経 日本済 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	現状 保全 引題 現状と課題 展と社会の 引題		第2回 民主政治の成立 (NHK高校講座) 放送は第1回のレ ポート内容	の条件、社会 契約説 ②法の支配、 基本的社立 の確立 ③国民主権、 権力分立
第5回 レポート	第3章 現代日本の諸 第2編 グローバル化す 会 第1章 現代の国際政 1節 国際政治のしくみ 2節 複雑化する国際 本	る国際社治	2 国 2 国 2 国 2 第 1 單 2 次 3 世 4 軍 5 紛	国際社会と国際社会と国際社会との 関際連国際の国際 対域を 対域を が が が が が は 対域 が 対域 が 対域 が 対域 の の が が が が が が が が り が り が り り り り り り	国際法 役割と課題 係の展と 際関係と日 動き サロリズム	日本 本		
第6回 レポート	第2章 現代の国際政 1節 国民経済と国際 2節 世界経済の現状 第3章 国際社会の諸	経済 と課題	2 3 1 2 3 4 章 第 3 4 章 3 4 章 3 4 章 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	関	済の と題 で が が が が が が が が が が が が が	経済 よう社会変 ペルギー問 と正 と成長市場		
面接指導 〈スクーリング〉	スクーリングでは、各順し、確認・訂正した上で、 を解消し、理解を深め、 らず、積極的に出席して	レポートを 新たな発見	提出してくが	どさい。レポ	ペート作成に	参考になる	授業プリントも活用し	ます。問題点
評価の観点と方法	レポートの提出時期や 的に加味し評価する。	内容を考慮	慢したレポー	-ト点と定期	考査の得り	点、スクーリン	グ時の取り組み状況	兄などを総合
担当者より一言	レポート作成について に粘り強くレポートを作りい。また、常に新聞・テレ	戊してくださ	い。授業や	レポートな	ど興味がわ	いた物事に	ついては色々と調べ	

科目]	数学入門	単位数	2	年次	1	担当	当者	山本 哲 ^注	裕
教科書	書等	新 高校の数学 Step By Step!	面接指	導時数	2		·卜提出 l数	6	試験回数	2
学習目	目標	小学校算数・中学校 得と技能を測り、事象を とともに、数学 I を学習	を数学的	に考案	する能	力を培し	ハ、数学	のよさを	認識できるよう	
レポート	內容	単元		学習	内容		メディア	利用学習	学習内容	\$
第1回 レポート	1	Step By Step! 1~7 2~15ページ 確認問題 62~68ページ	正負の数公倍数、分数ので 分数ので 分数ので 計算のに	公約数 生質と約 四則計算	分、通分	•				
第2回 レポート	2	Step By Step! 8~15 16~31ページ 確認問題 69~76ページ	文字を使 単項項式の 多項式式の 単項式と	多項式の)整理)四則計算)乗法・除	‡ 法					
第3回 レポート	3	Step By Step! 21~24 42~49ページ 確認問題 82~87ページ	平方根の 根号を含		計算					
第4回 レポート	4	Step By Step! 16~20 32~41ページ 確認問題 77~81ページ	式の展開 因数分開 式の値							
第5回 レポート	5	Step By Step! 25~30 50~61ページ 確認問題 88~93ページ	1次方程 連立方和 2次方程	呈式						
第6回 レポート	6	後期レポート問題の復習 4回・5回レポートのまとめ	式の展開 因数分解 式の値 1次方程: 連立方程 2次方程:	: 式 !式						
面接打		スクーリングでは、各回レポートの締切日直近回のレポートを解説します。出席には必ずレポートを持参し、確認・訂正した上で、レポートを提出してください。問消し、理解を深め、新たな発見を得られるような授業にしたいと思います。必要出確保だけにこだわらず、積極的に出席してください。							ください。問題	点を解
評価のと方		確保だけにこだわらず、積極的に出席してください。 レポートの提出時期や内容を考慮したレポート点と定期考査の得点、スクーリングり組み状況などを総合的に加味し評価する。							時の取	

科目	数学演習 (学校設定科目)	単位数	2	年次	3	担当者	山本	哲裕
教科書等	テスト式就職数学 (中部日本教育文		必要出席時 数	2	レポート提出 回数	6	試験回数	2
学習目標	過去の就職試験に使 面に対応できるように・		を解くこと	こより、数学	≱ I をより気	定着させて	将来に数学	を使う場
レポート内容	単元				内 容		NHK(回) 高校講座	スス音箱 インターネット授 士
第1回 レポート	テスト式就職数学 数: テキスト1~3	学 I	数の計算、	整式				
第2回 レポート	テスト式就職数学 数: テキスト4~6	学 I	乗法公式、	因数分解	、無理数			
第3回 レポート	テスト式就職数学 数: テキスト7~11	学 I	1次方程式 1次不等式		呈式、2次方	程式、		
第4回 レポート	テスト式就職数学 数: テキスト17~21	学 I	三角比、3 余弦定理、		互関係、正 量	弦定理、		
第5回 レポート	テスト式就職数学 数: テキスト23~25	 学 I	円の性質、	. 百分率と	歩合、濃度	・速度		
第6回 レポート	テスト式就職数学 数: テキスト27、28	学 I	面積、体積	Ę				
面接指導 〈スクーリング〉	スクーリングでは、 ずレポートを持参し、研め、新たな発見を得らず、積極的に出席して	望認・訂正した れるような授	た上で、レオ	ペートを提と	出してくださ	い。問題点	を解消し、	理解を深
評価の観点と方法	レポートの提出時期 状況などを総合的に加			ポート点と定	≝期考査の	得点、スク	-リング時 <i>の</i>)取り組み
担当者より一言	基礎的な事項につい 科ですが、基礎的な事 作成してください。							

1		ı						1			
科目]		数学 I	単位数	3	年次	2	担	当者 ————	山本 哲	裕
教科書	書等		高校の数学 I 数研出版)	面接指	導時数	3		ト提出 数	9	試験回数	2
学習目	目標	識の習	式、図形と計量、 習得と技術の習熟 うにするとともに	ぬを図り、	、事象を	数学的	に考察	する能力			
レポート	內容		単 元			内容		メディア	利用学習	学習内容	容
第1回 レポート	1	第1節	数と式 数と式の計算	計算の基 単項式と 多項式の 多項式の 展開の公	多項式)加法と洞)乗法				校講座	第12回	
第2回 レポート	2		数と式 数と式の計算	因数分解因数分解	• •	\$		数章	学 I	3712日 2次関数の]	
第3回 レポート	3	第1節	数と式 数と式の計算 1次不等式	根号を含 1次方程 不等式 不等式	式	計算					
第4回 レポート	4		2次関数 2次関数のグラ	関数 1次関数 2次関数							
第5回 レポート	(5)	第1節 フ	2次関数 2次関数のグラ 2次関数の値の	2次関数 2次関数 グラフと グラフと	の最大 2次方程	值•最小 !式	値	/			
第6回 レポート	6		図形と計量 三角比	直角三角 三角比 三角比 三角比の	の利用	係					
第7回 レポート	7	第1節 第2節 用	図形と計量 三角比 三角形への応	鈍角の3 正弦定5 余弦定5 三角形の	里 里			/			
第8回 レポート	8	第4章	集合と命題	集合 命題と類 必要条		分条件		/			
第9回 レポート	9	第5章	データの分析	データの データの データの データの	 の代表(i の散らに				/		
面接打		には必 消し、	ーリングでは、各 ダずレポートを持 理解を深め、新 <i>†</i> ごけにこだわらず	参し、確 とな発見	認・訂 を得ら	Eした上 れるよう	で、レホな授業に	ポートを打	是出して	ください。問題	点を解
評価のと方		レポートの提出時期や内容を考慮したレポート点と定期考査の得点、スクーリング り組み状況などを総合的に加味し評価する。							持の取		

		1			1	1					
科目	1		数学A	単位数	2	年次	2	担	当者	山本 哲	裕
教科書	書等		高校の数学A 数研出版)	面接指	導時数	2		ト提出 数	6	試験回数	2
学習目	目標	得と技	の数と確率、整 能の習熟を図り るとともに、それ	、事象を	を数学的	に考察	する能:				
レポート	內容		単 元		学 習	内容		メディア	利用学習	学習内容	污
第1回 レポート	1		場合の数と確率場合の数	集合の	要素の個則と積の			ベーシ	校講座 ツク数 学	第33回 組み合わ	
笠の同			場合の数と確率 場合の数	円順列 重複順 組合せ	列						
第2回 レポート	2										
第3回 レポート	3	第1章 第2節	場合の数と確率 確率	確率の	計算 試行と確	率					
第4回 レポート	4		図形の性質 平面図形		基本 等分線と の外心、						
第5回 レポート	(5)	第1節	図形の性質 平面図形 空間図形	円の接続	接する四 線 の定理 直線、平						
第6回 レポート	6	第3章 動	数学と人間の活	素因数 最大公 2進法			数				
面接打 〈スクー! <u>)</u>		には必 消し、	ーリングでは、各 ダずレポートを持 理解を深め、新 <i>1</i> ごけにこだわらず	参し、確定な発見	E認・訂Ⅰ 見を得ら	Eした上 れるよう	で、レポな授業は	ポートを打	是出して	ください。問題,	点を解
評価のと方			ートの提出時期 ・状況などを総合				ト点と	 定期考:	 査の得点	<u> </u>	 時の取

科目	1	科学と人間生活	単位数	2	年次	1	担当	当者	髙橋 萌	Ī
教科書	書等	科学と人間生活 (東京書籍)	面接指	導時数	8		·卜提出 数	6	試験回数	2
学習目	目標	自然と人間生活との関れ探究するために必要な観活と関連付けて科学的にうとする態度を養うととも	見察, 実駆 に探究する	食などに る力を養	関する技 う。自然	能を身に の事物・	こ付ける。 現象に近	。観察,到	実験などを行い、	人間生
レポート	·内容	単 元		学 習	内容		メディア	利用学習	学習内容	Š
第1回 レポート	1	生命の科学			その利用な微生物			1回 書籍)	1編 生命の <視聴内容 微生物とその 私たちのくらしへ	§> 0利用
第2回 レポート	2	生命の科学		のくらしっ	その利用 への微生 用		trin.		物の利用	
第3回 レポート	3	物質の科学			上食品 D科学			2回 書籍) ———	く視聴内容 衣料と食, 食品の科	品 学
第4回 レポート	4	物質の科学		食品(と食品の科学			3回 書籍)	3編 光や熱の <視聴内容 光の性質とその 目に見える光とも 方 目に見えない光さ	*> D利用 色の見え
第5回 レポート	5	光や熱の科学	光の進	み方とる 質 見える光	とての利 その基本 質 と色の見 <u>米とその</u>	的な性		4回 書籍)	用 4編 宇宙や地 学 <視聴内容	\$ >
第6回 レポート	6	宇宙や地球の科学 課題研究	身近左	な自然景	と自然災 :観の成り 害の防災	り立ち			自然景観と自然の	
面接排 〈スクーリ		面接指導において、教 を行っていき、基本的で科学的に探究するプ	な概念や	₽原理・	法則の理	里解を図	図る。ま <i>†</i>	こ、観察	、実験などを行	うこと
評価のと方:		レポートと考査の得点 る。		゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	是出状涉	_	 美中の取	り組みな		評価す

科目	1	生物基礎	単位数	2	年次	2	担	当者	髙橋 萌	į	
教科書	書等	新編生物基礎 (東京書籍)	面接指	導時数	8		·卜提出 数	6	試験回数	2	
学習目	目標	するために必要な観察、	実験など。生物や	に関する生物現	る基本的 象に主体	な技能的に関	について理解するとともに,科学的に投を身に付ける。観察,実験などを行い, わり,科学的に探究しようとする態度と				
レポート	内容			学 習	内容		メディア	利用学習	学習内容	容	
第1回 レポート	1	生物の特徴			性と共 ネルギ・			1回 :書籍)	1編 生物の <視聴内容 生物の多様性と	? >	
第2回 レポート	2	遺伝子とのその働き			眼とDN <i>A</i> パク質				2編 遺伝子との	うその働	
第3回 レポート	3	ヒトの体の調節	ヒトの)体を調	節するし	ノくみ		2回 :書籍)	く視聴内容 遺伝情報とタン の合成		
第4回 レポート	4	ヒトの体の調節	:	免疫のロ	またらき			3回 :書籍)	3編 ヒトの体の <視聴内容 免疫のはた	\$ >	
第5回 レポート	⑤	生物の多様性と生態系		植生	≤遷移			4回 · 惠 簽\	4編 生物の多析 態系	兼性と生	
第6回 レポート	6	生物の多様性と生態系	生態	系と生	物の多	様性	(果尿	書籍)	く視聴内容 生態系と生物の		
面接打 〈スクー!	-	を行っていき、基本的な	、教科書に準じた内容をICTと授業プリント、問題集などを活用しいな概念や原理・法則の理解を図る。また、観察、実験などを行る力と探求しようとする態度を養い、科学に対する興味・関心を						、実験などを行	うこと	
評価のと方		レポートと考査の得点。 る。	及び、レポート提出状況や授業中の取り組み						などを総合的に	評価す	

科目]	化学基礎	単位数	2	年次	2	担当	当者	髙橋 萌	Ī
教科書	書等	新編化学基礎 (東京書籍)	面接指	導時数	8		·卜提出 数	6	試験回数	2
学習目	目標	日常生活や社会との関連するために必要な観察、 学的に探究する力を養う う。	実験など	に関す	る基本的	な技能を	を身に付	ける。観	察、実験などを行	い,科
レポート	内容	単元		学習	内容		メディア	利用学習	学習内容	\$
第1回 レポート	1	化学と人間生活	物質	の成分	と構成	元素		1回 書籍)	1編 化学と人 く視聴内容 物質の成分と構	? >
第2回 レポート	2	物質の構成	原子の)構造と	元素の)	割期表			2編 物質の	構成
第3回 レポート	3	物質の構成		化学	結合			2回 書籍)	く視聴内容 化学結合 金属と金属系 化学結合と物質	ì 洁合
第4回 レポート	4	物質の変化	物	質量と	化学反应	<u>ក</u> ់		3回 書籍)	3編 物質の <視聴内容 物質量と化学 原子量・分子量 物質量	₹> !反応
第5回 レポート	5	物質の変化		酸と	塩基			4回	3編 物質の	? >
第6回 レポート	6	物質の変化		酸化還	元反応		果泉	書籍)	酸化還元反酸化剤と還え金属の酸化還	元剤
面接持		を行っていき、基本的な	いて、教科書に準じた内容をICTと授業プリント、問題集などを活用して 基本的な概念や原理・法則の理解を図る。また、観察、実験などを行う 究する力と探求しようとする態度を養い、科学に対する興味・関心を高め							うこと
評価の と方			出時期や内容を考慮したレポート点と単位認定試験の得点、スクーリング 況などを総合的に加味し評価する。							げ時の

科目		物理基礎	単位数	2	年次	2	担当	当者	髙橋 萌	į
教科書	書等	新編物理基礎 (東京書籍)	面接指	導時数	8		ト提出 数	6	試験回数	2
学習目	目標	日常生活や社会との関連に、科学的に探究するたる。観察、実験などを行いに関わり、科学的に探究	めに必要 い, 科学的	更な観察 内に探究	, 実験な なする力を	どに関す	る基本に	的な技能	を身に付けるよう	うにす
レポート	內容	単 元		学 習	内容		メディア	利用学習	学習内容	<u> </u>
第1回 レポート	1	物体の運動と エネルギー	<u>[</u>	直線運重	助の世界	1	第 [·] (東京		1編 物体の道 エネルキ <視聴内容 自由語 下道	デー \$> 運動
第2回 レポート	2	物体の運動と エネルギー	(果泉書籍) 自由落 鉛直 水平 力の運動の法則 1編 物体						水平投射	重動と
第3回 レポート	3	物体の運動と エネルギー	_ت)学的工	ネルギ-	_		2回 書籍)	<視聴内容 慣性の法」 「運動の変化」 作用・反作用の	則 と「力」
第4回 レポート	4	さまざまな物理現象と エネルギー		Ž,	.		第: (東京	3回 書籍)	2編 さまざまれ 現象とエネ. く視聴内容 温度と敷質 熱の移動と付 熱と仕事	ルギー ド> ! [保存
第5回 レポート	5	さまざまな物理現象と エネルギー		j	支			4回	2編 さまざまた 現象とエネル <視聴内容	レギー
第6回 レポート	6	さまざまな物理現象と エネルギー	エネ	_	気 とその和	钊用	(東京	書籍)	エネルギーの変技 原子核のエネル 放射線の利用と	換と保存 レギー
面接打 〈スクー!		を行っていき、基本的な	て、教科書に準じた内容をICTと授業プリント、問題集などを活用して授 本的な概念や原理・法則の理解を図る。また、観察、実験などを行うこ する力と探求しようとする態度を養い、科学に対する興味・関心を高める							うこと
評価の と方			期や内容を考慮したレポート点と単位認定試験の得点、スクーリング どを総合的に加味し評価する。						が時の	

利日	生物	宋 /七 */-	4	左加	0	+	и -у -		,
科目	生物	単位数	年次	2	担目	当者 	高橋 萌	1	
教科書等	新編生物基礎 (東京書籍)	面接指導	盽数	16	_	ト提出 数	12	試験回数	2
学習目標	「生物基礎」との関連を図る能力と態度を身に付け自然観を育てる。観察・3目的、仮説、準備、方法。	させる。生 実験を通し 結果、考察	物学 <i>0</i> て自然 察,発)基本的 を科学的 展という	な概念な かに探究 手順に従	り原理・液 する能力 ったレオ	は則の理 」を育てる ペートを作	解を深めさせ、科 る。さらに、実験に 成する能力を育	↓学的な 対する
レポート内容	単元		学習	- n	メディア	利用学習	学習内容	ř	
第1回 ① しポート ② 第2回	生物の進化	生命の起遺伝子の					1回 書籍)	1編 生物の近 く視聴内容 遺伝子の変化と進作	>
第2回 レポート ②	生物の進化	遺伝子の	変化。	と進化の	しくみ	笋′	2回	1編 生物の過	
第3回 レポート 3	生物の進化	生物の系	統と道	進化			書籍)	<視聴内容 生物の系統と	
第4回 4 レポート	生命現象と物質	細胞と物	質			第: (東京	3回 書籍)	2編 生命現象。 <視聴内容 代謝とエネル・	>
第5回 5 レポート 5	生命現象と物質	代謝とエ	ネルキ	<u>~</u>			4 <u>0</u>	3編 遺伝情報の発	
第6回 レポート 6	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報	さそ0	D発現			+四 書籍)	く視聴内容 遺伝情報とその	-
第7回 クレポート ク	遺伝情報の発現と発生	発生と遺	伝子教	発現			5回 書籍)	3編 遺伝情報の発 <視聴内容	>
第8回 8 レポート 8	遺伝情報の発現と発生	遺伝子を	扱う技	技術				発生と遺伝子: 	
第9回 レポート 9	生物の環境応答	動物の刺 動物の行		受容と原	反応		6回 書籍)	<視聴内容 動物の刺激の受容	>
第10回 ⑪レポート ⑪	生物の環境応答	植物の環	環境応	答			7回 書籍)	4編 生物の環境 <視聴内容 特機の環境に	>
第11回 レポート ①	生態と環境	個体群と	生物郡	详集				植物の環境に 5編 生態と迅	
第12回 レポート 12	生態と環境	生態系の 生態系と			質循環		3回 書籍)	く視聴内容 個体群と生物	>
							9回 書籍)	5編 生態と野 く視聴内容 生態系の物質生産と	>
	I								
面接指導 〈スクーリング〉	面接指導において、教科書に準じた内容をICTと授 を行っていき、基本的な概念や原理・法則の理解を で科学的に探究する力と探求しようとする態度を養						こ、観察	、実験などを行	うこと
評価の観点 と方法	レポートと考査の得点及び、レポート提出状況や授業					取り組み	よなどを終	総合的に評価する	, ,

科目	1	化学	単位数	4	年次	2	担当	当者	髙橋 萌	Ī
教科書	等	新編化学基礎 (東京書籍)	面接指	導時数	16		·ト提出 数	12	試験回数	2
学習目	目標	気体、液体、固体の性質について理解する。化学反応に関する概念や法見づいて整理できることを理解する。高分子化合物を理解する。上記の目標化学的に探究する能力を	変化に伴則を理解 里解する 別の性質・ を達成す	¥うエネノ する。無 。有機化 や反応を [−] るためⅠ	レギーの 機物質の 合物の 探究し,	出入り,)性質や 生質や反 合成高:	反応速度 反応を探 反応を探り 分子化合	まおよび付けます。 まままま まままままままままままままままままままままままままままままま	化学平衡を探究し 表の性質が周期 幾化合物の分類と 太高分子化合物の	ン, 化学 表に基 大徴を 大徴
レポート	·内容	単元		学習	内容		メディア	利用学習	学習内容	
第1回 レポート	1	Vo 物質の状態	.1 理論 物質の 気体の	状態				1回 書籍)	1編 物質の物 <視聴内容 気体の性質	>
第2回レポート	2	物質の状態	溶液の 固体の					2回 書籍)	1編 物質の物 <視聴内容 溶液の性質	>
第3回 レポート 第4回	34	化学反応とエネルギー 化学反応とエネルギー	化学反 電池と					3回	2編 化学反応とエ く視聴内容	>
レポート 第5回 レポート	⑤	化学反応の速さと平衡	化学反 化学平	応の速			第4	4回	化学反応と熱 	ネルギー
第6回レポート	6	化学反応の速さと平衡	化学平水溶液	中の化	学平衡			書籍) 5回	電池と電気分	さと平衡
		Vo	I.2 物質 周期表				(東京	書籍)	<視聴内容 化学平衡	>
第7回 レポート 第8回	7	無機物質	非金属	元素の 属元素の	単体として	化合物		6回 書籍)	4編 無機物 <視聴内容 非金属元素の単体	>
カルポート	8	無機物質	. —		がこして			7回	 4編 無機物	質
第9回レポート	9	有機化合物	有機化 炭化水		特徴と	講造		書籍)	<視聴内容 遷移元素の単体と	
第10回 レポート	10	有機化合物			連化合	物		3回	5編 有機化名 <視聴内容	
第11回 レポート	11)	有機化合物 高分子化合物		化合物	とは何な	\ \	(東京	書籍)	炭化水素	
第12回 レポート	12	高分子化合物 化学が果たす役割			合物 用と工業	的製法	(市台	9回 書籍)	6編 高分子化 <視聴内容 合成高分子化	>
面接指		面接指導において、教科いき、基本的な概念や原る力と探求しようとする態	書に準し理・法則	た内容の理解を	をICTと抗 を図る。 ā	た、観響	察、実験を	などを行		
評価の		レポート提出時期や内取り組み状況などを総					ⅳ認定試	験の得	点、スクーリンク	 i時の

							1	1			
科目		体育	単位数	3	年	次	1	担	当者	内海 翔:	太
教科書	等	現代高等保健(修館書店		面接指	導時数	15		∼提出回 数	3	試験回数	2
学習目	目標	を通して、心と	体を一位	本として	捉え、生	上涯にれ	たって	豊かなる	スポーツ	決に向けた学習 ライフを継続す 「成することを目	るとと
レポート	·内容	単元	,		学 習	内容		メディア	利用学習	学習内容	7
	(1)	スポーツの発	祥と発	スポ	ーツのタ	冶まりと	変遷	第 [·] (東京		陸上競技	Į
第1回 レポート		展		文化	ととして	のスポ-	ーツ	第 <i>2</i> (東京		水泳	
	2	体育実技	支	É	主的に	行う運	動	第(東京		器械運動	ħ
				オリン		パラリン	ピック	第4		バスケットボ	ール
第2回	1	スポーツの発 展	祥と発	スポー	ツが経	意義 済に及り 果	ぎす効	第(東京		ハンドボー	・ル
レポート	2	体育実持		É	主的に	:行う運!	動	第6 (東京		サッカー	-
		11177	^			-1177		第八	7回 書籍)	スポーツの始 変遷	まりと
	1	スポーツの発 展	祥と発		!	潔さとド ブ			3回 書籍)	文化としての2 ツ	スポー
第3回 レポート					スポーソ	ソと環境 			9回 書籍)	オリンピックと ンピックの意	
	2	体育実技	支	É	主的に	行う運	動				/
面接排<<スクーリ	-		りに実技	が困難	な場合	はあられ	いじめ相	訓談させ	別途指	しみながら実践 示を出す。運動 。	
評価のと方		レポート提出時の取り組み状だ						立認定詞	試験の得	非点、スク ーリン	グ時

科目	1	体育	単位数	2	年	次	2	担当	当者	内海 翔:	太
教科書	等	現代高等保健係 修館書店		面接指	導時数	10		、提出回 数	2	試験回数	2
学習目	目標	を通して、心と	体を一位	本として	捉え、生	上涯にれ	たって	豊かなる	スポーツ	決に向けた学習 ライフを継続す 「成することを目	るとと
レポート	·内容	単元	;		学 習	内容		メディアオ	利用学習	学習内容	<u> </u>
	(1)	運動・スポーソ	ツの学	スポー		ける技f カ	能と体	第 ¹ (東京	-	バレーボー	-ル
第4回 レポート	U)	び方		スポー		ける技 桁	桁と戦	第 <i>2</i> (東京		テニス	
	2	体育実技	支	É	主的に	行う運動	動	第3 (東京		卓球	
				+± ±:	in L法	課程と	(本 313)	第4 (東京		バドミント	ン
第5回	1	運動・スポー <u>)</u> び方	ソの学			・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		第5 (東京		スポーツが経済 ぼす効果	
レポート	2	体育実技			1主的17	行う運	<u></u>	第6 (東京		スポーツとヨ	環境
	٧	m H X J	~	_	1	-11 7,==	= ⁄J				
面接指			りに実技	が困難	な場合	はあられ	かじめ相	談させ、	別途指:	<i>∟み</i> ながら実践 示を出す。運動 。	
評価の と方:		レポート提出時 の取り組み状況						立認定詞	試験の得	非点、スク ーリン	グ時

科目	1	体育	単位数	2	年	次	3	担当	当者	内海 翔:	太
教科書	等	現代高等保健(修館書店		面接指	導時数	10		∼提出回 数	2	試験回数	2
学習目	目標	を通して、心と	体を一位	本として	捉え、生	上涯にれ	たって	豊かなる	スポーツ	決に向けた学習 ライフを継続す が成することを目	るとと
レポート	内容	単元	;		学 習	内容		メディアオ	利用学習	学習内容	\$
	(1)	 運動・スポー <u>ン</u>	ソの学	f	本力トレ	ーニング	ブ	第1(東京		ソフトボー	ル
第6回 レポート		び方		運動や		·ツでの ፤ :保	安全の	第 <i>2</i> (東京		柔道	
	2	体育実技	支	É	主的に	行う運	動	第3		剣道	
				生涯ス	ポーツの	の見方・	考え方	第4 (東京	-	ラグビー	-
第7回	1	豊かなスポーツの設計	ソライフ	ライフ		ルに応し ーツ	たス	第5 (東京	-	生涯スポーツ 方・考える	-
レポート	2	体育実技			1主的17	行う運	<u></u>	第6 (東京		ライフスタイル たスポー	
	&		Χ.		1111	- I] <i>J</i> . C. :	=/ J		_		
面接掛くスクーリ			加実技	が困難	な場合	はあられ	かじめ相	訓談させ、	別途指:	<i>∟み</i> ながら実践 示を出す。運動 。	
評価のと方:		レポート提出時 の取り組み状況						立認定詞	大験の 得	非点、スク ーリン	グ時

					 (1)						
科目		保健	単位数	2	年	次	1	担当	当者	内海 翔:	太
教科書	等	現代高等保健(修館書店		面接指	導時数	2		≻提出回 数	6	試験回数	2
学習目	目標	保健の見方・考通じて人々が自る。									
レポート	·内容	単元	;		学 習	内 容		メディアオ	利用学習	学習内容	<u>}</u>
第1回 レポート	1	現代社会と	健康		舌習慣病(がんの原	康のすが の予防と[取と予防 計療と回復	回復	第 ¹ (東京		1単元 現代社会 <視聴内容 生活習慣病の予覧 がんの原因と	> 5と回復
第2回 レポート	2	現代社会と	健康		食事。 休養·睡 喫煙。 飲酒。	と健康 康健康 と健康 と健康 と健康 用と健康				がんの治療と[回復
第3回 レポート	3	現代社会と 安全な社会		健康に	感染症 染症・エペ 関する意 故の現状	感染症 の予防 イズとその 思決定・行 と発生要 ける安全	·動選択 因				
第4回 レポート	4	安全な社会生涯を通じる			日常的な 心肺 思春期	意義とその 応急手当 蘇生法 明と健康 行動の選					
第5回 レポート	(5)	生涯を通じる	健康		妊法と人 結婚生 中高年 働くこと 労働災	産と健康生活と健康中康と健康・産業と健康・産業と健康・産業とは、					
第6回 レポート	6	健康を支える現り	環境づく	環 ⁵ 保(医)	「汚濁、土 竟と健康! 食品の 健サービ 療サービ	染と健康 壌汚染と ^対 り安全性 スとそのに スとそのに なとそのに	対策 5用 5用				
面接排		の保持増進対す	る考え方 入れなが	が異なる	る場合が 旨導を行	があるため う。レポー	、生活習 -ト課題(習慣病に 作成に参	関する内 考になる		トる内
評価のと方:								時の取			

科目		美術 I	単位数	2	年次	1	担当者		野村 絵美
教科書		日本文教出版「高校		必要出席時数	2	レポート 提出回数	6	試験回数	2
学習[目標	美術における様実技を通して、表				り美術文化を勢			てる。
レポート	内容	単元		学	習内	容	メディア 利用学習		学習内容
第1回 レポート	1	鉛筆デッサン			D特徴を 計ける。	を学び、実技 ・生かした立体 を使用	1	Eテレ・ 第3回 第4回	
第2回 レポート	2	絵画表現と鑑賞		絵画表現の記 現の工夫を覚 や感じ方がて 実技:鉛筆、1	やび、鑑 きるよ	賞で深い見方うにする。	2		人を描く 風景を描く
第3回レポート	3	美の秩序 生活を彩る模様		によって生ま	れる美し で、創む 理解を	造的に造形の 深める。	3		日本美術 写真と絵画
第4回 レポート	4	日本の美術			れている 日本の	るよさや美しさ 美術文化への	4	第15回 第16回	プロダクトデザイン マンガと アニメーション
第5回 レポート	(5)	立体表現映像メディア表現	見	の心情・意図	夫・見力 を感じ 理解し、 。	イア作品か でき学び、作者 なる。また、表 よさや美しさを			
第6回 レポート	6	デザイン		状況·対象者	・機能性 れてい は、自ら とし、伝 解を深	達効果と美し める。			
面接打 〈スクー!			体的な	創造活動の問	時間にし	て欲しい。実技	を通して	、デッサ	3様な表現方法を活 ン、色彩、構成、材料 て欲しい。
	評価の観点 と方法 と方法 とかに加味し評価します。								
担当者よ	美術は作品から学ぶことが大変多いです。教科書に掲載の作品や、教科書の各ページ下に記載のQRコードから観られる画像・動画を学習時にしっかり活用しましょう。 美術が日常生活の中でどのように活用されているか普段から興味関心を持ち、課題レポート・面接指導を通して主体的に知識・技能を身に付けて欲しいです。								

科目		美術Ⅱ	単位数	2	年次	2~3	担当者	,	野村 絵美
教科書	書等	日本文教出版「高村	支美術Ⅱ」	必要出席時数	2	レポート 提出回数	6	試験回数	2
学習目	目標	美術における様実技を通して、ま							てる。
レポート	内容	単元		学	習内	容	メディア 利用学習		学習内容
第1回 レポート	1	鉛筆デッサン			D特徴を 計ける。	を学び、実技 生かした立体 を使用	1	Eテレ・ 第1回 第2回	アートって何?
第2回 レポート	2	絵画表現		絵画表現の多現の工夫を等 現の工夫を等 や感じ方がで 実技:鉛筆、1	やび、鑑 きるよ	賞で深い見方うにする。	2	第5回 3	光と影 建築と美術
第3回 レポート	3	日本の美術・琳	派	継承されてい	るよさか	様式を学び、 や美しさを理解 る日本美術へ める。	3	第10回 第11回	複製 アートと ジェンダー
第4回 レポート	4	立体表現映像メディア表現	見	の心情・意図	夫・見力 を感じ 理解し、 。	イア作品か で学び、作者 なる。また、表 よさや美しさを	4	第17回 第18回	映像社会とアート
第5回 レポート	(5)	デザイン		状況・対象者 造的に工夫さ 実技課題では 表現の工夫を さについて理	・機能性 れてい は、自ら とし、伝 解を深	達効果と美し める。			
第6回 レポート	6	実技:鉛筆、色鉛筆を使用 自己の体験や印象、又は作品が 作られた時代背景や作者の意図 等、深い見方で鑑賞活動を行う。 鑑賞と社会 現代の社会で展開されている美術 活動について学び、日常生活にお ける美術の働きについて考察を深 める。							
面接排 スクーリ</td <td></td> <td></td> <td>主体的</td> <td>な創造活動の</td> <td>)時間に</td> <td>して欲しい。実</td> <td>技を通し</td> <td>て、デッ</td> <td>が様な表現方法を サン、色彩、構成、 付けて欲しい。</td>			主体的	な創造活動の)時間に	して欲しい。実	技を通し	て、デッ	が様な表現方法を サン、色彩、構成、 付けて欲しい。
評価の観点 と方法 と方法 と方法 と方法 と方法 によると定期考査の得点、スクーリング時の取り組みりなどを総合的に加味し評価します。									

					1 .				_		
科目	1	音楽	単位数	2	年	次	1	担当	当者	森田香奈	子
教科書	書等	音楽 I MOUSA 芸術者)		面接指	導時数	8		∼提出回 数	6	試験回数	2
学習目	目標	音楽の諸活動かな感性と心情			技能を	高め、音	条理解	を深め	るととも	に、音楽に対す	⁻ る豊
レポート	内容	単元	;		学 習	内容		メディアネ	利用学習	学習内容	Ž
第1回	1	楽典①		놭	音名、音	符と休名	ጎ	第1 (NH		暮らしの中に や音楽	
レポート	2	歌唱		ť	こうむこ	う、この	道	第2 (NH	-	日本のポップス	スを歌う
第2回 レポート	1	楽典②				音楽記号		第3 (NH		音楽のかたち のかたち	
יויעו	2	創作①		174		ズムア ル	ンサン	<i>h</i> .h.	. 🗆	白の土たりの	→ +
第3回	1	舞台芸術	រ៉ា	オペラ	、ミュー	ジカル、	バレエ	第4 (Nh	HK)	身のまわりの り込む	日で収
レポート	2	オペラ			カル	メン		第5 (Nh	-	リズムを表現	しよう
第4回	1	日本の伝統音	音楽①	雅	楽、能	、筝、尺	八	第6 (Nh	-	言葉の音楽	美性
レポート	2	歌曲		Heio	len rosl	ein(野に	ťら)	第7 (NH		儀式や式典の	D音楽
第5回	1	民謡		组	『土の民	誤と芸	能	第8 (Nh		 現代のポピュ 楽	ラ一音
レポート	2	 日本の伝統音 	音楽②		<u> 2</u>	争					
第6回	1	音楽史			西洋	音楽					
レポート	2	創作②		旋律の)雰囲気	iを変化 う	させよ				
面接持			支演習を	行いま	す。音楽					ます。音楽室に ノ、音楽の魅力	
評価のと方		レポート提出時 の取り組み状況						立認定詞	試験の得	身点、スクーリン	グ時

科目		家庭基礎	単位数	2	年次	1	担当者	岡本	律子
教科書	等	家庭基礎 自立·共生·創造	(東京書籍)	必要出席時数	4	レポート提出回数	4	試験回数	2
学習目	1標	(1)人の一生と家族・家庭的な理解を図るとともに、(2)家庭や地域及び社会し、考察したことを根拠にる(3)様々な人々と協力し、実向上を図ろうとする実践	それらにかか における生活 基づいて理論 よりよい社会	わる技能を身の中から問題 の中から問題 のに表現する の構築に向い	łに付けるよう 頃を見いだして るなど、生涯を	どについて、st がにする。 て課題を設定 で、見通して課	し、解決策を !題を解決する	構想し、実践る る力を養う。	₽評価∙改善
レポート	内容	単元		学	智 内	容	メディア 利用学習	学習	内容
第1回	1	生涯を見通す		1 人生を展望 2 目標を持つ			第1回 (東京書	第1章 2 目標を持つ	て生きる
レポート	2	人生をつくる		 人生をつく 家族・家庭 これからの 		会	籍)	第2章 1 人生をつく	3
第2回	3	子どもと共に育つ		1 命を育む 2 子どもの育 3 子どもと関 4 子どもとの 5 これからの	わる 触れ合いから	学ぶ	第2回 (東京書	第3章 1 命を育む	
レポート	4	超高齢社会を共に生	きる	1 超高齢・大 2 高齢期の心 3 これからの	衆長寿社会の ひ身の特徴 超高齢社会	到来	籍)	2 子どもの育	つ力を知る
	5	共に生き、共に支える	5	1 私たちの生 2 社会保障の 3 共に生きる	D考え方				
第3回 レポート	6	食生活をつくる		2 食事と栄養3 食品の選抜	₹と安全 ₹を見通した食 せ な化と知恵				
	7	衣生活をつくる		1 被服の役害2 被服を入手3 被服を管理4 衣生活のび5 これからの	≒する 関する て化と知恵				
	8	住生活をつくる		 1 住生活の変 2 安全で快道 3 住生活のが 4 これからの 	て化と知恵				\
第4回 レポート	9	経済生活を営む		2 購入·支払 3 消費者の権	権利と責任 各生活を見通す	去			
	10	持続可能な生活を営	む	1 持続可能な	社会を目指し	τ			
面接指 〈スクーリ		提出されたレポート・	課題を振り	返りながら	、楽しい実	技を中心に	こ行ないます	† 。	
評価の観点 レポートの提出時期や内容を考慮したレポーと方法 状況などを総合的に加味し評価します。					ーーーーポート点と定	≝期考査の行	——— 得点、スク-	<u></u> - -リング時の	取り組み

科目	1	家庭総合	単位数	4	年次	1	担当者	岡本	律子
教科書	事等	家庭総合 自立・共生・創造	5(東京書籍)	必要出席時数	8	レポート提出 回数	8	試験回数	2
学習目	目標	(1)人の一生と家族・家庭 礎的な理解を図るとともに (2)家庭や地域及び社会 善し、考察したことを根拠 (3)様々な人々と協力し、 充実向上を図ろうとする身	こ、それらにか における生活 に基づいて理 よりよい社会	かわる技能を の中から問題 は論的に表現 の構築に向し	を体験的・総 題を見いだし するなど、生	合的に身に付 て課題を設定 涯を、見通し	けるようにす ≧し、解決策を て課題を解決	る。 ·構想し、実践 する力を養う	を評価・改 。
レポート	内容	単元		学	智内	容	メディア 利用学習	学習	内容
	1	生涯を見通す		 人生を展望 目標を持っ 	望する て生きる			第1章 2 目標を持	って生きる
第1回 レポート	2	人生をつくる		1 人生をつく 2 家族・家庭 3 これからの	を見つめる	会	第1回 (東京書籍)	第2章 1 人生をつ	くる
第2回 レポート	3	子どもと共に育つ		1 命を育む2 子どもの育3 子どもと関4 子どもとの5 これからの	わる 触れ合いから	学ぶ	第2回	第3章 1 命を育む 2 子どもの	
	4	超高齢社会を共に生	きる	1 超高齢・大 2 高齢期の心 3 これからの		到来	《水水目相》	知る	/ FI フバモ
第3回 レポート	5	共に生き、共に支える	5	1 私たちの生2 社会保障の3 共に生きる	り考え方				
第4回 レポート	6	食生活をつくる		1 食生活の記2 食事と栄養3 食品の選択		きえる	第3回	第6章 1 食生活の課題 る	夏について考え
第5回 レポート	6	食生活をつくる		2 食事と栄養 3 食品の選択 4 生涯の健康 5 調理の基礎 6 食生活ので 7 これからの	尺と安全 東を見通した食 世 文化と知恵	事計画	(東京書籍)	3 食品の選択と	-安全
第6回 レポート	7	衣生活をつくる		 被服の役割 被服を入手 被服を管理 衣生活のび これからの 	=する 里する な化と知恵		第4回 (東京書籍)	第9章 1 情報の収集・ 定 2 購入・支払い 4 生涯の経済	のルールと方法
第7回 レポート	8	住生活をつくる		1 住生活の変 2 安全で快通 3 住生活のな 4 これからの	質な住生活の計 な化と知恵				
第8回 レポート	9	経済生活を営む		2 購入・支払3 消費者の格	権利と責任 各生活を見通す ジメントする	方法			
1, 1,	10	持続可能な生活を営	<u></u> む		は社会を目指し D力で社会を動				
	11)	これからの生活を創	造する	1 生活をデサ	・インする				
面接排	-	提出されたレポート・	課題を振り	返りながら	、楽しい実	技を中心に	こ行ないまっ	f 。	
評価のと方:		レポートの提出時期・ 状況などを総合的に			ート点と定	≝期考査の	 得点、スク-	 -リング時の	取り組み

科目	論理∙表現 I	単位数	2	年次		担当者	居合	·育子
教科書等	NEW FAVORITI English Logic and Expr		必要出席時数	8	レポート提出回数	6	試験回数	2
学習目標	1. 文脈にあった質問や 2. 論理の構成や展開を 3. 論理の構成や展開を	上工夫する	ことで、情報や	考え、気持ち	ちなどを、話して	伝えることだ	ができる。	ができる。
レポート内容	単元			学 習	内 容		NHK(回) 高校講座	東京書籍 インターネット授業
	Unit 1 Lesson 1 初めて(Unit 1 Lesson 2 道に迷 Unit 1 Lesson 3 人物紹	う	提案する,依頼 「文法」(Could 身近な人を紹介	現,可算名詞 する,道順を you …?や命 ゚する,注意?	令文など)		① Unit 1 Lesson 1 ② Unit 1 Lesson 2 ③ Unit 1 Lesson 3	① Unit 1 Lesson 1 ② Unit 1 Lesson 2 ③ Unit 1 Lesson 3
	Unit 1 Lesson 4 体調が Unit 1 Lesson 5 買い物 Unit 1 Lesson 6 行ってみたい場所		[文法]冠詞・人 描写する, 相づ:	、称代名詞。 ちを打つ と現在進行刑 理由を述べる			4 Unit 1 Lesson 4 5 Unit 1 Lesson 5 6 Unit 1 Lesson 6	4 Unit 1 Lesson 4 5 Unit 1 Lesson 5 6 Unit 1 Lesson 6
第3回 レポート	Unit 1 Lesson 7 イベントに誘われる Unit 1 Lesson 8 スクールカウンセラ Unit 1 Lesson 9 お気に入りを紹介		礼や感謝を伝え [文法](howや	現 ,手助けを申 .る whyを用いた っすじを要約し や批評を述へ	ョし出る, 助言・提 :文) いたり, 登場人物な ぶる		7 Unit 1 Lesson 7 8 Unit 1 Lesson 8 9 Unit 1 Lesson 9	7 Unit 1 Lesson 7 8 Unit 1 Lesson 8 9 Unit 1 Lesson 9
第4回 レポート	Unit 1 Lesson 10 待ち合わせに遅刻 Unit 1 Lesson 11 家庭でのディスカッ Unit 1 Lesson 12 英字新聞に投稿	ション	る [文法]仮定》 要望や主張を述	詞, to不定詞 残念な気持ち 去 ざべる, 理由を			① Unit 1 Lesson 10 ① Unit 1 Lesson 11 ② Unit 1 Lesson 12	① Unit 1 Lesson 11 ② Unit 1
第5回	Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート① Unit 2 Lesson 2 クラスでディベート② Unit 2 Lesson 3 経験談のスピーチ Unit 2 Lesson 4 遊びやスポーツを紹介	1	[文法]否定語(できごとをいきし [文法]後置修飾 ルールや手順を	同と動名詞 え駁する,相 の使い方 いきと描写す i,受動態 に順序だてて	手の意見を引用する, 経験からアド/ 説明する, 聞き手(E完了形と過去形	バイスをする	13 Unit 2 Lesson 1 14 Unit 2 Lesson 2 15 Unit 2 Lesson 3 16 Unit 2 Lesson 4	(13) Unit 2 Lesson 1 (14) Unit 2 Lesson 2 (15) Unit 2 Lesson 3 (16) Unit 2 Lesson 4
第6回 レポート	Unit 2 Lesson 5 日本をF Unit 2 Lesson 6 物語の両面を伝える Unit 2 Lesson 7 読み手を納得させる Unit 2 Lesson 8 読み手を説得する	, ,	[文法] and, but, 利点と欠点を述 [文法]名詞と無: 自分の主張につ とめる [文法]分詞構文	so べる, 話題を 生物主語 ひいて理由を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	5,文化や習慣を記 発展させる,話題 説明する,理由を 条件を出して意見:	を変える要約してま	17 Unit 2 Lesson 5 18 Unit 2 Lesson 6 19 Unit 2 Lesson 7 20 Unit 2 Lesson 8	① Unit 2 Lesson 5 ② Unit 2 Lesson 6 ③ Unit 2 Lesson 7 ② Unit 2 Lesson 8
	情報や考え, 気持ちな。 論理の構成や展開をエ						て伝える練習を	する。
評価の観点と方法	①授業中に生徒の言語 ②Modelの内容理解を確 ③Make Your Ownへの取評価項目:機能への理解 ④テーマに関連した活動 小テスト/中間・期末考 ⑤上記課題の内容や提	認する。(失 なり組みを討 とその活用 に使える表 を/評価問 出状況(知	□識・技能,思考・ 『価する。(知識・ 引,取り組みの熱・ 現について理解 題など 識・技能,思考・ ³	・判断・表現) 技能, 思考・ 心さなど してるかを争 判断・表現,	判断・表現, 主体 筆記テストする。(矢 主体的に学習に取	的に学習にE ロ識・技能) 双り組む態度	取り組む態度))	
担当者より 一言	スクーリングでは、それ 科書、ワークブックを持 ください。必要出席時数	参してくだ	さい。各自、わ	からないと	ころ、間違ったと	ころを確認し	出席するときに してから出席する	はレポート、教 るよう心がけて

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	年次		担当者	居合	育子
教科書等	All Aborad! English Commu	nication II	必要出席時数	16	レポート提出回数	12	試験回数	2
学習目標	1. 必要な情報を聞き取り, 2. 必要な情報を読み取り, 3. 基本的な語句や文を用いることができる。 4. 基本的な語句や文を用い 5. 基本的な語句や文を用い	書き手の意 いて、情報ヤ いて、情報ヤ	図を把握したり, 9考え, 気持ちな 9考え, 気持ちな	概要や要点を どを話して伝え どを論理性に	を目的に応じて扱 え合うやり取りを 注意して話して低	≧えたりすること 続けたり, 論理 云えることがで	とができる。 1性に注意して話し きる。	て伝え合ったりす
レポート内容	単元			学 習	内 容		NHK(回) 高校講座	東京書籍 インターネット授業
第1回 レポート	Pre-Lesson My Plans for This ` Lesson 1 A Colorful Islan		ビューしたりする	る。 −ノ島への旅行 ⊃いて学習する			① Lesson 1	① Lesson 1
第2回 レポート	Lesson 2 With the Beatle	s		,世代を超えて	の聴取者とディス て人気のあるバン the most		② Lesson 2	② Lesson 2
第3回 レポート	Lesson 3 Wild Men			通して, 人間を	場する「ワイルド [・] 士会と自然につい		③ Lesson 3	③ Lesson 3
第4回 レポート	Lesson 4 Little Hero		物語を通して, 酒材料]間接疑	不断の努力と 問文	を紹介する記事。 不屈の心につい	て考える。[言	4 Lesson 4	4 Lesson 4
第5回 レポート	Lesson 5 Special Makeup in K	abuki	日本の伝統文化 [言語材料]toオ		技と隈取について 長現	学習する。	⑤ Lesson 5	⑤ lesson 5
第6回 レポート	Reading 1 Mujina		情を読み取る。		読み,情景や登			
第7回 レポート	Lesson 6 Seeds for Future Gene	erations	表を通して, 伝統 [言語材料]動詞	統の継続につ	なるif節		⑥ Lesson 6	⑥ Lesson 6
第8回 レポート	Lesson 7 Over the Wall		人々と交流する [言語材料]関係	方法について 系副詞:where,	when		⑦ Leeson 7	⑦ Lesson 7
第9回 レポート	Lesson 8 Inspiration from Na	ture		ヒントに開発さ	ン講演の授業を れた製品につい		8 Lesson 8	8 Lesson 8
第10回 レポート	Lesson 9 The Bitter Truth behind	Chocolate	カカオ農園の実	態と児童労働	り上げた雑誌記 及びその解決策		9 Lesson 9	9 Lesson 9
第11回 レポート	Lesson 10 Fighting Angel		について学習す [言語材料]分詞	⁻ る。 司構文	§げたナイチンゲ 		① Lesson 10	10 lesson 10
第12回 レポート	Reading 2 Bear's Pie		平日の生活でよ	く使われる語	句や表現を学習	する。		
面接指導 〈スクーリング〉	各Lessonの情報を読み取 学んだ語句や表現を用い							
評価の観点と方法	①授業中に生徒の言語 ②本文の要約やPair Tall 評価項目:取り組みの熱 ③本文の内容について訪 組む態度) 中間・期末考査/評価問 ④上記課題の内容や提出	k, Fun Talk 心さ, 声の たんだり, 聞 題/補充:	(!あるいはActiv 大きさ, 発音の 引いたりしたこと 文法問題/10:2	vityの各Step)正確さなど を理解してい 分間テストなる	への取り組みを いるかを筆記テス ビ	を評価する。(ストする。(知	知識•技能,思考識•技能,主体的	・判断・表現)
担当者より一言	スクーリングでは、それま ワークブックを持参してく 要出席時数の確保だけに	ださい。各	自、わからない	ところ、間違・	ったところを確認	忍します。出席 忍してから出り	『するときにはレァ 席するよう心がけ	ポート、教科書、 てください。必

科目	英語コミュニケーション I	単位数	3	年次	1	担当者	J	居合 育子
教科書等	All Aboard! English Communicati	on I	必要出席時数	12	レポート提出 回数	9	試験回数	2
学習目標	1.必要な情報を聞き取り、 2.基本的な語句や文を用し 話して伝え合ったりするこ 3.基本的な語句や文を用い	ヽて、情報 ^っ ことができる	や考え、気持な。 。	ちなどを話して	て伝え合う ²	やり取りを約	続けたり、	論理性に注意して
レポート内容	単 元		学	習 内 容		東京	書籍	NHK高校講座
第1回 レポート	Warm-Up Pre-Lesson 1, 2 Lesson 1 Breakfast around the Wo	rld	世界の朝食を て, その特徴 [言語材料]be 形	や相違を学習	する。	① Lessor	n 1	① Lesson 1
第2回 レポート	Lesson 2 Australia's Cute Quo Lesson 3 A Train Driver in Sanı		オーストラリア カと観光のル・ [言語材料]追 被災地を運行 ピーチを通して 考える。 [言語材料]即	ールについて! i行形 する列車運転 C,職業の意 i	学習する。 法士のス 遠について	② Lessor ③ Lessor		② Lesson 2 ③ Lesson 3
第3回 レポート	Lesson 4 A Miracle Mirro	-	海外の観光 メールを通し 学習する。 [言語材料]t	て、その魅力		④ Lessor	ո 4	④ Lesson 4
第4回 レポート	Lesson 5 Learning from the S Extra Target 2	ea	高校のユニー 好きなことと将 [言語材料]動	来の夢につい		⑤ Lessor	ո 5	⑤ Lesson 5
	Reading 1 Short Stories in Eng Lesson 6 A Funny Picture from the Period		3つのショートれの場面や心を理解する。 江戸時代の浮いてのスピーマンガの関連 [言語材料]受	情を読み取っ 世絵師, 歌川 チを通して浮せ 性について考	てユーモア 国芳につ 世絵と現代	⑥ Lessor	n 6	⑥ Lesson 6
第6回 レポート	Lesson 7 A Diary of Hope		アンネ・フラン 紹介する授業 味について考 [言語材料] b	を通して, 生き える。	記について きることの意	⑦ Lessor	ı 7	⑦ Lesson 7
第7回 レポート	Lesson 8 A Door to a New Life		ロボットカフェ: して, ロボット(る。 [言語材料] 野	の可能性につ		8 Lessor	n 8	8 Lesson 8
第8回 レポート	Lesson 9 Fighting Plastic Pollutio	n	ブラスチックこ インドネシアの る。 [言語材料]名 分詞	が妹の活動を	生学習す	9 Lessor	າ 9	9 Lesson 9
第9回 レポート	Lesson 10 Pigs from across the Sea Extra Target 3		第二次世界大 とハワイ在住の 人からの援助 流について学 [言語材料]関	の沖縄出身日 や, 両地域の 習する。	系アメリカ 現在の交	① Lessor	n 10	① Lesson 10
面接指導 スクーリン グ	各Lessonの情報を読み取 学んだ語句や表現を用い					う。		
評価の観点 と方法	①授業中に生徒の言語活動 ②本文の要約(各LessonのS 能, 思考・判断・表現) 評価項目:取り組みの熱心さ ③本文の内容について読んで む態度) 中間・期末考査/評価問題/ ④上記課題の内容や提出状	iummary)や , 声の大き だり, 聞いた /補充文法	Pair Talk, Fun さ, 発音の正確 りしたことを理 問題/10分間・	Talk!あるいは ごさなど 解しているかる テストなど	tActivityのイ を筆記テスト	Stepへのう する。(知識	取り組みを 哉・技能, 主	評価する。(知識・技

科目		情報I	単位数	2	年	次	2	担当者		久安 歩	
教科書等		新編情報 I (東京書籍)		面接指導時数		4	レポート摂	昆出回数	4	試験回数	2
学習目標		動を通して、問題	見方・考え方を働かせ、情報技術を活用 ・解決に向けて情報と情報技術を適切っ 資質・能力を育成する								
レポート内容		単 元			内容		メディア利用学習		学習内容		
第1回	1)	1章 情報で問題を解決する	1. 情報 2 2. 問題 3 3. 発報 4 5. 個 6	ı H	W 1-	第1回 (東京書籍)		1章 情報で問題を解決す る P.6~11			
レポート			决する 	7. 著作権 8. 情報打 9. 情報化 10. よりよ	を 技術の発展 とと私たち い情報社	の生活の t会へ	変化	第2回 (東京書籍)		1章 情報で問題を解決す る P.12~19	
第2回 レポート	2	2章 情報を伝え	న	12. ネット 13. デジ値 14. 数音と回 16. 色と 17. 情報	コミュニケタルの世界と文の世界と文のです。 当像のデジーのではないです。 はボイナル・ディール・ディール・ディール・ディール・ディール・ディール・ディール・ディー	デジタル表 ジタル表現 ジタル表現 デジタル化 デザイン	D特徴 現 !				
第3回レポート	3	3章 コンピュータを活	用する	24. アルコ 25. プログ 26. プログ 27. 発展I 28. 発展I	ウェアの (の仕組みの ゴリズムの ブラムの基 ブラムの ブラムの ブラムの リカなプログ レ化とシミ	士組み とコンピュ・)表現 基本構造1 基本構造2 ブラム1 ブラム2 ュレーショ					
第4回 レポート	4	4章 データを活用 [・]	する	31. ネット 32. インタ 33. サーク 34. インタ 35. 情報 36. デーク 37. デーク 38. デーク 39. デーク	ワークとイスークとイスーネットのバーネット」 マーネット」 セキュリテタのベースの マースの マースの マースの マースの マースの	インターネ の仕組み アント 上のサービ イ)活用 タモデル	ぎス				
面接持		スクーリングでは ポートと教科書を ださい。		ノポートの	締切日直	近回のレ	ポートを解				
評価の観点 と方法		レポートの提出り 評価します。	犬況や内]容、定期	考査の得	点、スクー	 -リングで(の取り組	 み状況	などを総合的に	加味し

科目		ビジネス基礎	単位数	2	年	次	2	担当者		久安 名	步	
教科書	書等	ビジネス基 (実教出版	-	面接指	導時数	4	レポート摂	出回数	4	試験回数	2	
学習目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通し地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資ことを目指す。										
レポート	内容	単	元			学	習 内 容	Į.		メディア利用学習		
	1	1 商業の学		ビジネス <i>0</i> たの社会	第1回(NHK) 1回 私たちの社会と ビジネス ・2回 ビジネスとコ ミュニケーション							
第1回 レポート	2	2 ビジネスとコミ	2 ビジ	ュニケーシ ネスマナ- その入手と	第2回(NHK) 12回 ビジネスと企業 ・16回 雇用							
	3	3 経済と流	章 孤の基礎	楚		Fの仕組み F活動と流						
第2回 レポート	4	4 さまざま [:]	2 小売 3 卸売 4 物流 5 金融									
第3回 レポート	(5)	企業活	2 マー 3 資金 4 財務	諸表の役 活動と税								
	6	€ ビジネス。	章 と売買取	引	1 売買 2 代金	【取引の手 注決済	·l順					
第4回 レポート	7	7 ビジネ		ネス計算(ネス計算(
	8	8 身近な地	3章 域ビジネ	.ス	1 さまざまな地域の魅力と課題 2 地域ビジネスの動向							
面接持		スクーリングでは ポートと教科書で ださい。										
評価の観点 と方法		レポートの提出状況や内容、定期考査の得点、スクーリングでの取り組み状況などを総合的に加味し評価します。								こ加味し		

科目	1	キャリアデザイン I 単位数		2	年次	2	担当者	髙橋	萌		
教科書等		Hand-book-of Life Style		必要出席時 数	4	レポート提出 回数	4	試験回数	2		
学習目標		能力の育成、自己管	理能力や抗	はじ、探求的・体験的な学習活動を取り入れ、コミュニケーション協調性の育成を図る。広い視野に立って自らを高め、社会に役で3態度を育て、望ましい勤労観・職業観・価値観の形成・確立を							
レポート	内容	単元			学 習	内容					
第1回 レポート	1	第1章 プロの職業人を目指す	・プロへのビジョン・夢を実現する3つの基本フォーム・夢を実現するための3つの行動原則・Benesseマナビジョン」適職・敵学診断								
第2回 レポート	2	第2章 学校生活編 第3章 日常生活編		 ・今日も笑顔であいさつを ・コミュニケーション ・身だしなみ ・パソコンを上手に使うために ・言葉遣い ・インターネット上の誹謗中傷 							
第3回 レポート	3	第3章 日常生活編	・健康診断・健康的な生活を送るために、健康管理を・ドラッグについて・生活習慣病について・緊急時の対応								
4第回 レポート	4	第3章 ・災害・事故について 日常生活編 ・トラブルについて									
面接指導 〈スクーリング〉		インターンシップやサ	・ 地域行事へ	への参加なる	どの体験的]学習も積板	極的に取り	入れる。			
評価の観点 と方法		①レポート課題の取り ②各授業の態度、取 ③試験の得点 を総合的に判断し評	り組み方								

科目	1	キャリアデザイン Ⅱ	単位数	2	年次	2•3	担当者	松本	健吾	
—————————————————————————————————————		高校生の進路ノ	' —ト	必要出席時 数	4	レポート提出 回数	4	試験回数	2	
学習目標		生徒の特性及び進路希望に応じ、探求的・体験的な学習活動を取り入れ、コミュニケーショ 能力の育成、自己管理能力や協調性の育成を図る。広い視野に立って自らを高め、社会に 立つ人間として生きていこうとする態度を育て、望ましい勤労観・職業観・価値観の形成・確認 図る。							t会に役	
レポート	内容	単 元				学 習	内 容			
第1回 レポート	1	変化する社会と求めら 質・能力	られる資			、社会で求分にあった。				
第2回 レポート	2	職業理解、上級学校の	職業についての理解や上級学校での学びを知り、卒業後の進路選択について考える。学校選びや仕事選びのポイントを知る。							
第3回 レポート	3	コミュニケーションスキ PRスキル		いて知り、	⁄ョンや傾聴 チーム力 <i>の</i>					
4第回 レポート	4	生き方とライフプラン			り返り、人生 生き方とライ					
面接指導 〈スクーリング〉		自己分析と他己分析 について紹介する。ま								
評価の観点 と方法		①本学習への関心・意欲・態度②問題解決に関する諸能力③キャリアに関する技能・表現力本学習を通しての知識・理解とそれらを生かす力などを総合的に判断し、3観点で評価する。								
担当者より一言		自らを高めること・さ ので、積極的に取り約			本的視点と	こした人間修	象の実現に	向けて創設	としている	